

<令和4年度 1年次生履修科目>

Ⅲ. 専 門 分 野

1. 關於「 」的討論， 與 的區別在於，前者是「 」的具體化，而後者是「 」的抽象化。

2. 在「 」的討論中， 與 的區別在於，前者是「 」的具體化，而後者是「 」的抽象化。

3. 關於「 」的討論， 與 的區別在於，前者是「 」的具體化，而後者是「 」的抽象化。

4. 在「 」的討論中， 與 的區別在於，前者是「 」的具體化，而後者是「 」的抽象化。

5. 關於「 」的討論， 與 的區別在於，前者是「 」的具體化，而後者是「 」的抽象化。

必修科目 (1)

科目	看護の原理	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師：瀧 泉
講義の概要および学習目標	<p>看護の原理は、看護専門職としての看護実践能力を修得するための基本的内容を学ぶ科目である。どのような看護にも求められる本質をつかみとり、それを実践に活かせるように、看護にとって大切な土台の部分、ナイチンゲール看護理論を基に学ぶ。看護は看護者が持つ倫理観をもとに実践されていることを学び、看護学生としての倫理について考える。</p> <p>また、社会の中で保健医療サービスを提供するシステムと、そのシステムの中で機能する看護について学習する。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護の主要な概念を理解する 2 看護の本質、看護独自の役割と機能、看護の今後の方向性について考える 								
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職としての看護 ・看護の変遷—どのように看護が発展してきたか ・ 看護一般論の必要性和有用性 ・ 看護とは何か — ナイチンゲール看護論から看護の本質をつかみとる ナイチンゲールの三重の関心 看護のための対象論 ・ 健康と看護 ・ 看護の機能と役割 ・ 保健医療システムと看護 ・ 看護における倫理、看護学生としての倫理 								
評価法	<p>課題レポート 授業出席状況、参加度</p>								
受講生への要望	<p>学生には「看護への関心や意欲をもって主体的に学習し、考えて行動できる看護師」をめざしてほしいと願っています。授業は教科書どおりに進めませんが、必要な知識は教科書で復習しておいてください。またレポート等の提出物は期日や時間を厳守してください。遅れた場合は減点処理しますので注意してください。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「看護学概論」／茂野 香おる 他／医学書院 2) 科学的看護論 第3版／薄井 坦子／日本看護協会出版会 3) ナイチンゲール看護覚え書／F. ナイチンゲール／現代社 4) ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 5) ナースが視る病気／薄井坦子／講談社 								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナイチンゲール伝 図説 看護覚え書とともに／茨木 保／医学書院 2) 看護学原論講義[改訂版]／薄井 坦子／現代社 3) がん看護へのことば／武田 悦子／すびか書房 4) DVD看護教育概論 アメリカの看護／ライダー島崎 玲子／医学映像教育センター 5) DVD看護教育概論 日本の看護／ライダー島崎 玲子／医学映像教育センター 6) DVD「いのちがいちばん輝く日」—あるホスピス病棟の40日—／溝淵雅幸監督作品 								

必修科目 (2)

科目	看護のための認識論	単位	1	時間数	15	開講期	1年前期	担当者	看護師:宮田 芳衣 看護師:河内 友子 看護師:梶山 木綿
講義の概要および学習目標	<p>人間はからだとところを持っている。からだ(実体)は見えるし触れることができるしかし、ところ(認識)は頭脳の働きであるから見えないし触れない。自分の認識を伝え、相手の認識を知るためには、表現し合うことが必要であるが、認識＝表現ではないため、行き違いが起きてしまうことがある。看護専門職は、人を相手にする仕事であるため、行き違いを起こさないように相手の認識を理解する能力の向上が必須である。そこで、この科目では人の認識とは何か理解し、相手の立場に立つことを論理的に学び、自分の体験を題材にして相手の立場に立つ考え方を練習をしていく。繰り返し練習していくことで、立場の変換する力が鍛えられ、看護の質の向上だけではなく、日常生活を豊かにすることにもつながる科目である。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 起きている事象・現象における法則性(認識の三段活用)を日常で活用する。 2. 立場の変換過程を意図的に行い、他者との関係を豊かにするための方法を考える。 								
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人の認識とは ・看護と認識の関係 ・モデル図(人間一般、円錐、人間関係、過程) ・観念的二重化、日常の中の体験を通して練習 ・認識発展の三段階、のぼりおりの練習 ・認識論を意図的に使いながら、身近な人との関係を発展させるための調和的解決方法を見出す。 								
評価法	各授業でのレポート 最終レポート								
受講生への要望	<p>皆さんの生活の中で起きたことを題材にして、学習していきます。日常生活での人とのやり取りを大事にしてください。</p> <p>認識論では、相手の頭の中を知るための考え方は教授します。その考え方を使って、相手の頭の中をどれだけ理解するかの学習ですので、教員が答えを知っている、正解がある、暗記する、ということではないです。教員も皆さんと一緒に考えていきます。互いの体験を通して、みんなで成長していけるように、意見を言うこと、聞くことを意識して授業に取り組んでください。</p>								
テキスト	書名／著者名／発行所 基礎看護学の冊子								
参考文献	書名／著者名／発行所 科学的看護論 第3版／薄井 坦子／日本看護協会出版会								

必修科目 (3)

科目	看護の方法 I	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師: 宮田 芳衣 看護師: 松本 理恵
講義の概要および学習目標	<p>看護師は人々と出会った時、看護を必要としているか”見抜く”ことをしている。”見抜く”ためには看護師の5感と知識と技術を総動員してその人を見つめることから始まる。看護の対象である人を見つめることができるようになるための観察の意義と方法を学び、健康状態について観察するためのバイタルサイン測定技術を習得する。</p> <p>そして、得られた情報は何を意味しているのか知識とつなぎ合わせて査定(アセスメント)することを学ぶ。</p> <p>その人をさらに深く知るため、必要な看護を提供していくため、かかわりを通して関係を築いていくためのコミュニケーションの意義と技術を学ぶ。</p> <p>看護はチームで行うため、チームで情報を共有することの意義を理解し正しく伝えることの意義を理解し、観察やコミュニケーションで得られた情報を整理するための記録について学ぶ。</p> <p>《学習目標》 看護する目的での観察方法を学び、かかわりを看護に発展させるためのコミュニケーションを学ぶ。そして、得られた情報を整理するための記録について理解する。</p>								
講義内容	<p>あいさつとは・他者からみて感じの良い振る舞いとは コミュニケーションとは 看護のコミュニケーション技術 観察とは、看護をするための観察とは 観察方法 バイタルサインとは 体温とは、循環とは、呼吸とは バイタルサイン測定技術の習得 アセスメントとは 看護記録</p>								
評価法	<p>バイタルサイン測定技術試験 修了試験 課題レポート</p>								
受講生への要望	<p>自分の行為が看護となるためには、技術の正確さのほかに援助を行う自らの姿勢が問われます。学習にまじめに取り組んでもらうことはもちろんですが、日々の自らの生活やコミュニケーションを見つめ、振り返ること、周囲の人と関係を築いていくことも望みます。</p> <p>循環、呼吸、体温は解剖生理学、看護のための人間論で同時期に学びますので、学んだ知識を復習して授業に臨んでください。バイタルサイン測定技術は生命の徴候の変化に気づくための基本的、かつ重要な技術です。</p> <p>そのため、正しい値が得られ、安全で安楽な測定技術を身に付けましょう。</p> <p>技術は手順だけ覚えても、実際に患者さんに行うことは難しいです。技術を行う意味・根拠を理解しながら、何度も練習し、身に付けていきましょう。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野 I 「基礎看護技術 I」／藤崎 郁 他／医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 I 「基礎看護技術 II」／藤崎 郁 他／医学書院 3) フィジカルアセスメントガイドブック／山内 豊明／医学書院 4) からだの地図帳／佐藤 達夫／講談社 5) ナースが視る人体／薄井 担子／講談社 6) ナースが視る病気／薄井 担子／講談社 <p>* 基礎看護学の冊子(授業で配布します)</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>								

必修科目 (4)

科目	看護の方法Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師:宮田 芳衣
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-----------

講義の概要および学習目標	<p>私たち看護師は、目の前のその人にどのようなことが援助として必要だろうか、そしてどのような方法で看護を行えばいいかを考えて、主体的な看護を実践していく。そのためには自分で考え、判断し、行動できる力を身につけていくことが必要である。これらの力は日々の学習の取り組み、日常生活において意識して行っていくことで身につけていく。さらに、根拠のある主体的な看護実践ができるためには、“どのようにすれば看護になるのか”という考えが持てる看護師の頭(思考)が必要である。</p> <p>この科目では、看護師としての思考、成長につながる振り返りの方法など、これから看護を学ぶ上で必要な知識を理解していくことから始める。そして、後期からナイチンゲールの三重の関心から、看護過程の展開技術(=看護になるための思考の筋道)を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 考える力を自分で成長させる方法を理解する。 2 三重の関心(知的な関心、心のこもった人間的な関心、実践的・技術的な関心)を注ぐ方法を理解する
講義内容	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考える」とはどういうことか ・情報を見極めるとは ・成長につながる振り返り ・発想を広げる見方 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の展開技術を学ぶとは ・看護実践のための方法論 <ul style="list-style-type: none"> 知的な関心を注ぐ 心のこもった人間的な関心を注ぐ 実践的・技術的な関心を注ぐ
評価法	課題・レポートの内容、筆記試験による総合評価とする
受講生への要望	<p>前期の授業は、その他の授業、実習、学習において活用していくことが重要です。どうしたらいいのかわからなくなったら、この授業で学んだ、知ったことを見返せるように、授業に取り組んでください。</p> <p>後期の授業は、実習とも連動します。この授業では看護になるための思考の道筋を明らかにしていくために道具を使います。道具を使って感じたことをぜひ教えてください。実習で使いながら、皆さんが考えて、意味を理解し、工夫して行ってほしいと思っています。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)科学的看護論／薄井 坦子／日本看護協会出版会 2)ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 3)ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社 4)病気の地図帳／山口 和克／講談社 5)健康の地図帳／大久保 昭行／講談社 6)からだの地図帳／佐藤 達夫／講談社 7)看護の方法Ⅰで配布する基礎看護技術の冊子 <div style="margin-left: 400px;"> <p>後期の 看護過程の展開技術 にて使用する</p> </div>
参考文献	書名／著者名／発行所

必修科目 (5)

科目	看護の方法Ⅲ	単位	1	時間数	20	開講期	1年前期	担当者	看護師:矢野 玲枝 看護師:中村 泉
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-----------------------

講義の概要および学習目標	<p>人は環境から様々な影響を受けて生活しており、健康を維持・増進させるためには環境を整えることが不可欠である。患者の健康を維持・増進させるためには、病室や病床の空気をきれいに保ち、明るさや温度に気を配り、「安全かつ快適な環境」を提供していくことが必要である。本科目では、五感を使い、あたまを使いながら環境と感染予防について学んでいく。</p> <p>共通して誰もにいえる「安全かつ安楽」な環境とは、①危険がないこと②汚染物質から守られること③その人にとって必要なものが適切な場所にあることである。その一方で、それまで生きてきた生活環境が影響するため、個人の認識によってつくられることから各々が感じる「快適な環境」には個人差が生じるものでもある。そこで、対象にとって安心かつ快適な環境をつくれるよう、さまざまな技術の習得を目指す。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康にとって生活環境を整えることの意義を理解し、病床における環境整備の技術を習得する 2 すべての患者にかかわる時に安全な医療を提供できるための基本となる感染予防の知識・技術を習得する
--------------	---

講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境とは ・病床環境整備① 演習)環境整備 ・病床環境整備② 演習)ベッドメイキング ・病床環境整備③ 演習)臥床患者のリネン交換 ・感染予防の意義と原則 ・標準予防策 演習)日常的手洗い・衛生的手洗い ・感染経路別予防策 演習)個人防護具の装着・脱衣 ・医療器材の処理 ~洗浄・消毒・滅菌~ ・看護の方法Ⅲ 統合演習 ・筆記試験
------	---

評価法	出席状況、講義・演習・グループワークの参加態度、課題、筆記試験にて総合的に評価します
-----	--

受講生への要望	<p>看護師はまず、五感を使って感じとることから始まります。環境や状況を見て気づいたことをもとに、どのように整えたら対象にとって安心できる「快適な環境」となるのかを考えながら実践していきましょう。</p> <p>技術習得においては、原理原則を踏まえながら技術方法の根拠を理解することが必須です。ただ記憶するのではなく意味を理解しながら技術を身につけてほしいです。臨床の場で環境に目が向き、自分で常に考えて行動できるようになることを期待します。</p>
---------	---

テキスト	<p>書名／著書名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ「基礎看護技術Ⅱ」／有田 清子 他／医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ「臨床看護総論」／香春 知永／医学書院 3) ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 4) ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社 5) 健康の地図帳／大久保 昭行／講談社
------	---

参考文献	<p>書名／著書名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナーシングバイオメカニクスに基づく自立のための生活支援技術／紙屋 克子 ／株ナーシングサイエンスアカデミー 2) Module方式による看護実習方法書<改訂版>／薄井 坦子 監修／現代社 3) 写真でわかる臨床看護技術 ①／本庄 恵子 他／インターメディカ
------	---

必修科目(6)

科目	看護の方法Ⅳ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師:杉山 加苗
講義の概要および学習目標	<p>運動をすることと休息をとることは明確に分けることができない。休息をとりながらも身体は動きを完全に止めることなく、細胞や各器官は運動している。そして、その量が増せば休息が多く必要となる。人間は、運動をすることで身体や精神面の維持を図り、次なる運動に向けて状態を整えるために休息をとる、ということを繰り返し、健康を維持しようとする。その身体の動きを理解し、運動と休息のバランスをととのえるための援助方法について学ぶ科目である。また、この講義を受けることで、運動と休息に対する理解を深め、自分自身がより健康に生きていくために、心身を意識的に動かしたり休めたりして自己管理ができるようになることもめざしている。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康にとっての運動と休息の意義および看護の視点を理解する 2 運動と休息のバランスを整えるための基本的看護技術を身につける 3 人間の自然な動き、及び力学を看護に活かす方法について学ぶ 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動と休息のバランスを整えるとは〔講義〕 2. 健康にとっての運動の必要条件(運動の効果・生理的変化)〔講義〕 3. 良い姿勢と体位・関節可動域・廃用症候群〔講義〕 4. 人間の自然な動き・自立のための生活支援技術につなげるために〔演習〕 5. ボディメカニクス〔演習〕 6. 体位変換・ポジショニング〔演習〕 7. 車椅子・ストレッチャーの移乗・移送方法〔演習〕 8. 健康にとっての休息の必要条件(休息時の身体的変化・効果)〔講義〕 9. ストレスとリラクゼーション〔演習〕 10. 手浴・ハンドマッサージ〔演習〕 11. 足浴〔演習〕 12. 運動と休息のバランスを整えるための援助・事例を通して グループワーク〔演習〕 13. 筆記試験 								
評価法	授業・演習参加姿勢 グループワーク及び個人課題 筆記試験・レポート								
受講生への要望	<p>授業では、原理・原則を講義します。技術が身につく段階に達するためには、自己学習・繰り返しの練習が必要です。技術演習では、患者体験をもとにより良い看護について考えていきます。積極的に意見交換を行い、互いに学びあう姿勢をもち取り組んでください。自分の身体の手や足など全身を使って人に接する演習です。服装・髪の毛・爪などの身だしなみが整っていない場合退室していただくことがあります。</p>								
テキスト	<p>書名／著書名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ「基礎看護技術Ⅱ」／有田 清子 他／医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ「臨床看護総論」／香春 知永／医学書院 3) ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 4) ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社 5) 健康の地図帳／大久保 昭行／講談社 								
参考文献	<p>書名／著書名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ナーシングバイオメカニクスに基づく自立のための生活支援技術／紙屋 克子 ／株ナーシングサイエンスアカデミー 2) Module方式による看護実習方法書<改訂版>／薄井 坦子 監修／現代社 3) 写真でわかる臨床看護技術 ①／本庄 恵子 他／インターメディカ 								

必修科目(7)

科目	看護の方法 V	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	看護師: 山口 一世 看護師: 中村 泉
講義の概要および学習目標	<p>人間の皮膚は外界の刺激から身体を保護すると共に、不要物を排泄する器官としての大切な役割を担う。そのため皮膚の機能を維持し、身体を清潔に保つことは健康にとって不可欠である。また、清潔が保たれることで人としての尊厳が保たれ、社会関係を保ち、社会の中で生活することができる。</p> <p>この科目では、人が清潔を維持し衣服をまとう意義を理解し、倫理的配慮に基づき安全安楽に清潔、衣生活を整えるための基礎的技術を学ぶ。</p> <p><学習目標> 人にとっての身体の清潔、衣生活の意義と理解し、健康の良い状態に向かうための身体の清潔の保持、衣生活への援助技術を学ぶ</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔、衣生活の必要条件(講義) 2. 全身清拭、寝衣交換の基礎知識(講義) 3. 4. 5. 全身清拭、寝衣交換(演習) 6. 洗髪、整容の基礎知識(講義) 7. 8. 洗髪(演習) 9. 10. 整容(演習) 11. 12. 陰部洗浄(講義・演習) 13. 14. 様々な状況にある人の清潔援助(演習) 15. 終了試験 								
評価法	出席状況、授業、演習への参加姿勢、筆記試験により評価する								
受講生への要望	清潔・衣生活の看護技術は実習でも多く経験する技術です。また、羞恥心や個別性への配慮が求められる技術です。真摯に取り組み各々で技術習得に向けて練習を積み重ねてください。								
テキスト	書名／著書名／発行所 系統看護学講座 専門分野 I 「基礎看護技術Ⅱ」／有田 清子 他／医学書院								
参考文献	書名／著書名／発行所 1) ナースが視る人体／薄井 担子／講談社 2) ナースが視る病気／薄井 担子／講談社 3) 写真でわかる臨床看護技術 ①／本庄 恵子 他／インターメディカ								

必修科目(8)

科目	看護の方法Ⅵ	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	看護師:梶山 木綿 看護師:河内 友子
講義の概要および学習目標	<p>この科目は、健康にとっての「食」と「排泄」の概念をおさえ、食と排泄のバランスを整えていくために必要な基礎的な看護技術を習得する科目である。健康にとっての食と排泄の必要条件を理解し、その条件を満たすためのケアの必要性を判断する力、食と排泄のバランスを整えるための方法を知り、援助技術を学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康にとって食と排泄を整えることの意義を理解し、病床における食と排泄環境を整える必要性を理解する 2 食と排泄が障害された時の看護援助を安全に行うための知識と技術を習得する 3 食事介助、排泄援助を受ける対象の思いを自ら体験することで、援助技術を行う際の配慮がわかる 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「食と排泄のバランスをととのえる」とは 2. 健康にとっての「食」の必要条件 3.4. 食事介助〔演習〕 5. 事例から食事介助の方法を考える〔演習〕 6.7.経管栄養〔演習〕 8. 健康にとっての「排泄」の必要条件 9. 排泄用具を用いた排泄行動の援助〔演習〕 10. 健康障害時の援助① 排便障害 11.12. 排便障害時の援助「浣腸」〔演習〕 13. 健康障害時の援助② 排尿障害 14. 事例から排泄介助(おむつ交換)の方法を考える〔統合演習〕 15. 筆記試験 								
評価法	出席状況、講義・演習・グループワークの参加態度、レポート、課題、筆記試験を総合的に評価します。								
受講生への要望	<p>「食」と「排泄」は生命活動を維持するうえで重要なものであり、本来自立し、習慣化されています。それだけに「食」と「排泄」の援助を受けるといことは、自尊心の低下や羞恥心をとまなうことがあります。</p> <p>この科目では患者体験で感じたことを活かしながら、人への配慮を忘れずに、技術習得に向けて励んでください。演習前後で自己課題やグループワーク課題がでます。いずれも、よりよい援助をするために必要なものです。みなさんが主体的に取り組むことを期待しています。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)系統看護学講座 専門分野Ⅰ「基礎看護技術Ⅱ」／藤崎 郁／医学書院 2)ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社 3)ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社 								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)Module方式による看護実習方法書<改訂版>／薄井 坦子 監修／現代社 2)看護がみえるvol.1 基礎看護技術／メディックメディア 3)看護がみえるvol.2 基礎看護技術／メディックメディア 								

必修科目(10)

科目	看護基礎力アップ演習	単位	1	時間数	15	開講期	1年後期	担当者	看護師：矢野 玲枝 看護師：宮田 芳衣
----	------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------------------

講義の概要および学習目標	<p>この科目は、設定した事例患者に対して、看護の方法Ⅰ～Ⅵで学習してきた看護の専門的知識を活用し、対象をイメージし、対象にどうなってほしいのか、どうなることが回復にすむことになるのか(目的)を考える。原理原則に基づいた基本技術を実施し、患者の反応から振り返り(評価)、改善することを繰り返すことで、対象にとって安全、安楽、自立につながる基本技術の複合や応用を学ぶ。</p> <p>また、実施と振り返りを繰り返す中で、自己の看護技術の課題を見出し、技術力を磨いていくこともこの科目の目的である。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原理原則に基づいた生活援助技術を実施し、対象にとって安全、安楽、自立につながる基本技術の複合や応用を学ぶ。 2 より良い援助にするために患者の反応から援助・技術の振り返りができる。 3 繰り返し看護技術を練習することで、看護技術の習得レベルを向上させる。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例患者の安楽や自立を促す排泄環境や方法を考え、安全に実施する。 2. 発熱時の看護援助を考え、実施する。 3. 事例患者の苦痛の緩和・安楽への援助を考え、実施する。 <p>事例患者の看護援助について2年生に相談し、より良い援助方法を考える。</p>
評価法	ルーブリックを用いて評価
受講生への要望	<p>事例患者について考える、援助を実施する、事例患者役を行う時に、自分が“気づいたこと”なんだろうと思ったことを表現しましょう。グループでその“気づき”や“疑問”を共有し、知識を使って考えることで、対象理解を深め、援助の方法、技術をよりよいものにしていくことができます。そして、演習を通して、うまくいかない、失敗することをたくさん経験してください。その体験を振り返ることで、学べるがたくさんあります。振り返ることで気づいた学びを積み重ねて、自分の看護技術力を向上させていってください。</p>
テキスト	<p>書名／著書名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ「基礎看護技術Ⅰ」／藤崎 郁 他／医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ「基礎看護技術Ⅱ」／有田 清子 他／医学書院 <p style="text-align: center;">対象理解に必要な教科書</p>
参考文献	書名／著書名／発行所

科目	地域と暮らしを知る 演習 I	単位	1	時間数	15	開講期	1年 前期	担当者	看護師:梶山 木綿
----	-------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	-----------

講義の概要および学習目標	<p>地域・在宅看護論では、地域で暮らす人々とその家族を理解し、地域におけるさまざまな場で、健康と暮らしを支えるための看護を学ぶ。そのためには健康を支援するための生活の基盤である「地域」や「暮らし」を理解する必要がある。</p> <p>静岡市の高齢率は全国をみても高い水準にある。そこで、「生涯活躍のまち静岡(CCRC)推進事業」の一環として駿河共生地区をモデル地域として整備を図り地域で暮らし続けることを支援する事業を始めた。当校は、そのモデル地区である駿河共生地区に位置しており、その学校周囲のフィールドワークを行う。実際に歩くことで地域を肌で感じたり、地域で暮らす人々とのかかわりを通して、地域特性を理解するとともに暮らしについて理解を深める。さらに、「地域」と「暮らし」のつながりについて考える。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フィールドワークを通して、人々の暮らしを知る 2 地域の特性と暮らしのつながりについて考える 												
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護論とは、地域・在宅看護論の対象とは日本の現状とめざすもの 2. 駿河共生地区の探検(フィールドワーク①) 3. まとめと発表「地域特性をふまえたその施設の意味は何か?」「駿河共生地区はどんな地域か」 4. フィールドワーク② 地域で暮らす人々とかかわる 5. 学びの共有 テーマ「地域特性がどのように暮らしに影響しているのか?」 <p>(夏休みの課題)</p> <p>自分の住んでいる地域を調べよう 自分の住んでいる地域にある社会資源を5つ上げ、MAPを作成する 「自分が地域にできることを1つあげよう」</p>												
評価法	出席状況、演習への取り組み、レポート課題を総合して評価します。												
受講生への要望	<p>今まで生きてきた環境や出会ってきた人の中で形成された自分の価値観にとらわれず様々な暮らしや価値観に触れていきましょう。地域で暮らす人々と積極的にかかわってください。そこで感じ考えたことを大事にして表現していきましょう。</p> <p>駿河共生地区と自分の地域を調べ、地域に関心をもち、自分も地域の一員であることを自覚出来るといいと思います。</p>												
テキスト	<table border="0"> <tr> <td>書名</td> <td>著者名</td> <td>発行所</td> </tr> <tr> <td>1)地域・在宅看護論1</td> <td>地域・在宅看護の基盤</td> <td>第6版/河原加代子他/医学書院</td> </tr> <tr> <td>2)地域・在宅看護論2</td> <td>地域・在宅看護の実践</td> <td>第6版/河原加代子他/医学書院</td> </tr> </table>	書名	著者名	発行所	1)地域・在宅看護論1	地域・在宅看護の基盤	第6版/河原加代子他/医学書院	2)地域・在宅看護論2	地域・在宅看護の実践	第6版/河原加代子他/医学書院			
書名	著者名	発行所											
1)地域・在宅看護論1	地域・在宅看護の基盤	第6版/河原加代子他/医学書院											
2)地域・在宅看護論2	地域・在宅看護の実践	第6版/河原加代子他/医学書院											
参考文献	<table border="0"> <tr> <td>書名</td> <td>著者名</td> <td>発行所</td> </tr> <tr> <td>1)地域・在宅看護論①</td> <td>地域療養を支えるケア</td> <td>臺有桂他/ナーシング・グラフィカ</td> </tr> <tr> <td>2)地域・在宅看護論②</td> <td>在宅療養を支える技術</td> <td>ナーシンググラフィカ</td> </tr> <tr> <td>3)写真でわかる訪問看護</td> <td>押川眞喜子</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </table>	書名	著者名	発行所	1)地域・在宅看護論①	地域療養を支えるケア	臺有桂他/ナーシング・グラフィカ	2)地域・在宅看護論②	在宅療養を支える技術	ナーシンググラフィカ	3)写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	メディカ出版
書名	著者名	発行所											
1)地域・在宅看護論①	地域療養を支えるケア	臺有桂他/ナーシング・グラフィカ											
2)地域・在宅看護論②	在宅療養を支える技術	ナーシンググラフィカ											
3)写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	メディカ出版											

必修科目(13)

科目	地域と暮らしを知る 演習Ⅱ	単位	1	時間 数	20	開 講 期	1年 後期	担 当 者	看護師: 赤堀美智子 看護師: 梶山 木綿
----	------------------	----	---	---------	----	-------------	----------	-------------	--------------------------

講義の概要および学習目標	<p>現在の日本では、少子・高齢化の進展による生産年齢人口の減少とそれに伴い医療提供体制が変化している。また、急速な高齢化の進展をふまえ、2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築が推進されている。本科目では、地域包括ケアシステムについて学ぶ。地域と暮らしを知る演習Ⅰで学んだ地域特性と暮らしのつながりを、地域包括ケアシステムの構成要素である自助・互助・共助・公助やしきみと結び付けて理解していく。</p> <p>静岡市の施設に出向きフィールドワークやインタビューを通して、人々の健康な暮らしを支える視点から考えることで、どのように人々の健康な暮らしを支えているのか、地域で健康に暮らし続けるためにはどのように支援したらよいかについて考える。</p> <p>地域の暮らしを支えるために看護師をはじめ多くの職種が切れ目ない支援を行っている。お互いの仕事や役割を理解し、尊重するとともに、連携・協働する必要がある。本科目では、多職種と連携・協働するための基礎的能力を養うために、多職種連携ワークを通して多職種を知りる。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域で健康に暮らし続けることを支えるしきみを理解する 2 人々が健康に暮らすことを支える多職種について理解する 3 地域包括ケアシステムにおける看護の役割について考える 																				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステム(自助・互助・共助・公助) 2. 静岡型地域包括ケアシステムの理解・地域包括支援センターの役割(出前講座) 3. フィールドワーク(静岡市の施設を訪問しインタビューを行う) 4. グループワーク 5. 体験発表会 テーマ:「地域で暮らす人々の健康をどのように支えているのか?」 6. 地域の防災 7. 多様な人々と連携するとは 他職種連携ワークオリエンテーション 8. 多職種連携ワークⅠ 9. 終了試験(レポート) 																				
評価法	出席状況、演習への取り組み、レポートを総合して評価します。																				
受講生への要望	<p>フィールドワークから感じたことや学んだことを、制度やシステムと結びつけて理解をしていきます。また、人とつながることのできる地域づくりが、その人の健康を守ることにつながることを考えていきます。そこから自分も地域の一員であり、自分が生活する地域の実際に興味関心をもってほしいです。さらに、自分も暮らしている中で支える側にも支えられる側にもなっていることを理解していきましょう。フィールドワークや多職種連携ワークではさまざまな人々とかかわることになります。看護学生として望ましい姿勢・態度で臨んでください。発表会やワークには積極的に参加し、様々な考えに触れていきましょう。</p>																				
テキスト	<table style="width: 100%; border: none;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">書名</th> <th style="text-align: left;">著者名</th> <th style="text-align: left;">発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 地域・在宅看護論1</td> <td>地域・在宅看護の基盤</td> <td>第6版/河原加代子他/医学書院</td> </tr> <tr> <td>2) 地域・在宅看護論2</td> <td>地域・在宅看護の実践</td> <td>第6版/河原加代子他/医学書院</td> </tr> </tbody> </table>									書名	著者名	発行所	1) 地域・在宅看護論1	地域・在宅看護の基盤	第6版/河原加代子他/医学書院	2) 地域・在宅看護論2	地域・在宅看護の実践	第6版/河原加代子他/医学書院			
書名	著者名	発行所																			
1) 地域・在宅看護論1	地域・在宅看護の基盤	第6版/河原加代子他/医学書院																			
2) 地域・在宅看護論2	地域・在宅看護の実践	第6版/河原加代子他/医学書院																			
参考文献	<table style="width: 100%; border: none;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">書名</th> <th style="text-align: left;">著者名</th> <th style="text-align: left;">発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 地域・在宅看護論①</td> <td>地域療養を支えるケア</td> <td>臺有桂他/ナーシング・グラフィカ</td> </tr> <tr> <td>2) 地域・在宅看護論②</td> <td>在宅療養を支える技術</td> <td>ナーシンググラフィカ</td> </tr> <tr> <td>3) 写真でわかる訪問看護</td> <td>押川眞喜子</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>									書名	著者名	発行所	1) 地域・在宅看護論①	地域療養を支えるケア	臺有桂他/ナーシング・グラフィカ	2) 地域・在宅看護論②	在宅療養を支える技術	ナーシンググラフィカ	3) 写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	メディカ出版
書名	著者名	発行所																			
1) 地域・在宅看護論①	地域療養を支えるケア	臺有桂他/ナーシング・グラフィカ																			
2) 地域・在宅看護論②	在宅療養を支える技術	ナーシンググラフィカ																			
3) 写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	メディカ出版																			

必修科目(18)

科目	成人看護学 成人看護概論	単位	1	時間 数	15	開 講 期	1年 後期	担 当 者	看護師：瀧 泉
----	-----------------	----	---	---------	----	-------------	----------	-------------	---------

講義の概要および学習目標	<p>人間の一生の中で最も長い成人期とはどういう時期なのか、成人期を生きる人々を理解する。成人期の特徴を概観することから、保健上の問題を引き出し、わが国の保健問題の動向と保健対策を学ぶ。成人保健の方策と看護者の役割について考え、健康上の問題をもつ成人期にある人々への基本的な看護活動について学ぶ。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人期から老年期へ続く変化の過程を“人間の発達過程”と、捉えることができる 2 成人期にみられる健康問題を、生活に焦点をあてて理解する 3 成人期を生きる人が健康な生活を作り出すポイントについて考え、看護者の役割、看護アプローチの基本を学ぶ
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフサイクルと看護 ・ 青年期の特徴と保健問題 ・ 壮年期・中年期の特徴と保健問題 ・ 成人を取り巻く環境と生活から見た健康 生活習慣病・職業性疾病 ・ 生活習慣に関連する健康課題と対策 ・ ストレスと健康生活 ストレスマネジメント ・ 成人学習者の特徴と健康教育や患者教育を提供するための効果的アプローチ
評価法	<p>筆記試験 提出課題 出席状況</p>
受講生への要望	<p>健康や成人に関する保健問題や制度に関するニュースや新聞記事に、普段の生活から興味を持ち、授業の内容を身近なものとして理解できるよう努力してほしい。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野「成人看護学総論」／小松 浩子 他／医学書院 2) 国民衛生の動向(2022/2023)／厚生統計協会 3) 生涯人間発達論 第3版／服部 祥子／医学書院
参考文献	<p>授業の中で紹介していきます</p>

必修科目(24)

科目	老年看護学 老年看護概論	単位	1	時間数	15	開講期	1年 後期	担当者	看護師:松永しのぶ
講義の概要および学習目標	<p>ライフサイクルにおける人間の発達段階をみると、その節目ごとに発達上の意味がある。老年看護概論は「第3の人生」(科学的看護論)を生きる人の理解と、そのステージを現代の日本で生きているという視点で”生活と健康”について考え、看護師の役割、看護のアプローチの基本を学ぶ。</p> <p>《学習目標》 人間の一生の中で老年期とはどういう時期なのか、老年期の生理的・心理的特徴を理解する。老化、病、障害を合わせ持つ状況を捉え、高齢者がより良く生活していけるために生活をどのように整えていくのか考える。また、老年期を取り巻く社会状況や課題がわかり、おかれている状況から、権利擁護、倫理的課題について考える。より良い人生の終末を迎えるための意思決定や高齢者のQOLを支援するための看護の役割を学ぶ。</p>								
講義内容	<p>1 講目 高齢者の人生を知ろう -ライフストーリーのインタビューを通して 2 講目 高齢者が快適に生活するためのアイデアを考えよう -高齢者体験を通して 3 講目 身近な高齢者がこれからも健康に生活していくための提案書作成① 4 講目 身近な高齢者がこれからも健康に生活していくための提案書作成② 5 講目 高齢者に起こりやすい症状を捉え、必要なかわりを提示する 6 講目 高齢者を取り巻く社会・権利擁護について 7 講目 人生の最期をどう迎えるか① -老衰死 8 講目 人生の最期をどう迎えるか② -アドバンスケアプランニング</p>								
評価法	<p>7講目に確認テストを行います。 事前学習、アイデアシート、提案書、ライフストーリーレポート、権利擁護についてのレポート 老衰死・ACPLレポート、学びの図解 各課題に配点があり、確認テストと合わせて100点になります。</p>								
受講生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身近にいる高齢者と積極的にコミュニケーションや関わりを持つ機会を作って自分の世代以外の人々の価値(好きなもの、楽しみ、嫌なことなど)に興味を持つ。 ・高齢者に関する保健問題、制度に関するものなど、ニュースや新聞記事に、普段の生活から興味を持ち、授業の内容を身近なものとして理解できるよう努力してほしい。 ・授業は体験やグループワークを多く取り入れる。他者から与えられる学びだけでなく、自分自身や仲間と共に気づき、学びを深められるような取り組みを意識してほしい。 								
テキスト	<p>書名/著者名/発行所 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護学」/北川 公子 他/医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」/鳥羽 研二 他/医学書院</p>								
参考文献	<p>書名/著者名/発行所 「平穏死」という選択/石飛 幸三/幻冬舎ルネッサンス新書 「平穏死」10の条件/長尾 和宏/ブックマン社 生涯人間発達論/服部 祥子/医学書院 国民衛生の動向/厚生統計協会</p>								

必修科目(28)

科目	小児看護学 小児看護概論	単位	1	時間 数	20	開講 期	1年 後期	担当 者	看護師: 矢野 玲枝
----	-----------------	----	---	---------	----	---------	----------	---------	------------

講義の概要および学習目標	<p>小児看護の目的は、さまざまな健康レベルにある子どもたちに対する必要な援助を行うことである。そして、子どもをとりまく家族や地域の人々とともに、子どもたちを社会の一員として育てていくことが重要である。そのためにはまず、対象である小児を理解し、子どもがおかれている社会を理解する必要がある。そこで本科目では、小児各期の成長・発達の特徴について学び合い、成長・発達の基本をおさえることを目指している。さらに、小児各期の成長・発達に合わせた日常生活行動の獲得に向けた支援について理解を深めていく。</p> <p>子どもとかがかわるうえで、子どもを一人の存在として尊重することが基盤となる。すべての子どもが権利を有することを理解し、子どもにとっての最善の利益とは何かを常に考えることの必要性がわかることで、2年次以降の学習につなげていくことがねらいである。</p> <p>《学習目標》 小児各期の成長・発達の特徴について学ぶ。さらに発達段階に合わせた遊びや日常生活行動の獲得に向けたかかわり方を学ぶ。また、子どもを守る法律や制度を理解し、子どもを一人の存在としてとらえ、子どもの権利条約に基づいたかかわりについて考えながら学ぶ。</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学への招待 ～私のライフヒストリー～ 2. 乳児期の成長・発達の特徴 3. 幼児期の成長・発達の特徴 4. 日常生活習慣の獲得に向けた支援 5. 子どもの遊び 6. 学童期・思春期の成長・発達の特徴 7. 子どもを守る法律と制度 8. 9. 子どもの権利条約 10. 筆記試験
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、グループ内評価、グループ別評価、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	<p>本科目の多くは、事前学習として各自が担当し、調べてきた内容について資料をまとめ、小グループで発表し合う協同学習をおこなっていく。プレゼンテーション力も養いながらグループメンバーと教え合い・学び合うため、事前学習にはきちんと取り組み、説明できるように自分が理解して学習してほしい。これらの資料は、2年次に学ぶ授業や3年次に学ぶ小児看護学実習、さらには国家試験勉強にも役立つため、個人が教える責任を感じながら学習してほしい。</p> <p>本科目では、かつての自分を想起し、時には子どもになりきって、楽しみながら学んでほしい。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 ／奈良間 美保 他／医学書院 2) ナーシンググラフィカ 小児看護学① 「小児の発達と看護」 ／中野 綾美 他／メディカ出版
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生涯人間発達論 第3版／服部 洋子／医学書院 2) 小児看護学①小児看護学概論・小児保健／松尾 宣武 編集／メヂカルフレンド社 3) 国民衛生の動向(2022/2023)／厚生統計協会 <p>その他、成長・発達に関する保育書籍等</p>

必修科目(32)

科目	母性看護学 母性看護概論	単位	1	時間 数	15	開 講 期	1年 後期	担 当 者	助産師:脇田 由紀子 保健師
講義の概要および学習目標	<p>次世代が健康に生まれ育つためには、さらに、人間が健康であるためには、生涯を通して人間の性と生殖に関する健康が守られる必要がある。母性看護概論では、人間の性という視点から、母性看護の基盤となる概念を学び、母性看護の対象を現代社会における性の多様性や対象を取り巻く環境と合わせながら理解する。そこから、母性看護の課題や役割を考えていく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 母性看護の対象と特徴及び看護の役割について理解する 2 人間の性の多様性について理解する 3 近年の母子を取り巻く社会環境を知り、日本における母子保健施策の現状を理解する 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性、父性、親性 2. 人間の性 3. 女性のライフサイクル(思春期・成熟期・更年期・老年期)の身体的・心理的・社会的変化 4. 母子保健に関する法律、母子保健施策、社会の動向 5. 母性看護の役割 								
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)、協同学習への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。								
受講生への要望	<p>自身の体験および授業をととして、性について自己の考えを深める機会にしてほしい。日頃から、ニュースなど社会の動向に興味と関心を持ち、自己の考えを表現してほしい。そして、事前課題やグループワークなどでも、自己の考え、他者の考えを大切にしながら、ディスカッションし新たな知見を得てほしい。</p> <p>※女子学生は基礎体温測定を課題にします。婦人体温計および記録用紙が必要となります。詳細については、初回授業時に説明します。男子学生は体温測定を行います。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 母性看護学概論 森 恵美 他／医学書院 2) 国民衛生の動向(2022/2023)／厚生統計協会 3) 生涯人間発達論 第3版／服部 祥子／医学書院 								
参考文献	授業の中で紹介していきます。								

<令和4年度 2・3年次生履修科目>

I. 基 礎 分 野

中華民國二十九年十月一日

行政院

必修科目(4)

科目	論理学Ⅱ (ものの見方・考え方)	単位	1	時間数	15	開講期	2年 後期	担当者	宮地 祐司
講義の概要および学習目標	<p>論理学Ⅱでは、「ものの見方・考え方」についてを扱う。 自然、人間、社会などさまざまなものを対象にして、問題意識を持ち、解けるかもしれない問題を設定し、空想をたくましくし、他人と議論し、どれが正しいかどうかを実験的にあきらかにしていくプロセスを体験していただく。そこから、今まで「見えなかった」「見ようとしなかった」ものから、「<見えないもの>が見えてくる」楽しさや快感を実感していただきたい。さらに、最終的には、人間はどうして間違えるのか、どうしてだまされるのか、そしてどうしたらだまされにくい人間になれるのかを考えることを目標とする。</p>								
講義内容	<p>仮説実験授業という教育方法にもとづいた認識論・発想法などをもとにして授業を行なう。具体的な講義項目を先に明らかにすると「学ぶたのしみ」が減退するので、ここでは詳細を記すことはしない。</p>								
評価法	<p>講義の最後にまとめの試験を行なう予定。もし、その時間がない場合は、レポート提出とする。</p>								
受講生への要望	<p>情報の「消費者」だけではなく、情報の「生産者」となって欲しい。そのためには自分の意見と感性を率直に表現でき、自分や他人の間違いから学ぶ、ほんの少しの勇気を持って、しかし気楽に発言し授業に参加することを要望する。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 使用しない。講義の時にプリントを配布。</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 1)「新哲学入門」／板倉聖宣／仮説社 2)「発想法かるた」／板倉聖宣／仮説社 3)「科学的とはどういうことか」／板倉聖宣／仮説社</p>								

必修科目(9)

科目	社会学	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	冬木 春子
----	-----	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------

講義の概要および学習目標	<p>現代において、日本の家族が直面している問題を社会の変化に関連づけながら学習し、これからの家族関係や地域社会のあり方について考えることをねらいとする。授業を通じて、これまで抱えている家族イメージから離れ、家族を見る方法を取得し、家族と社会の実態についての理解を深めてもらいたい。</p>		
講義内容	<p>下記のテーマについて授業を行う。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1 「家族」とは何か 2 社会変動と家族の変化① 3 社会変動と家族の変化② 4 社会変動と家族の変化③ 5 配偶者選択 6 晩婚化・未婚化と少子化 7 産む、産まないということ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 8 ドメスティックバイオレンス 9 離婚・再婚と家族 10 母親の子育て 11 父親の子育て 12 貧困と社会 13 エコマップを用いた家族援助 14 高齢社会と家族 15 テスト </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 1 「家族」とは何か 2 社会変動と家族の変化① 3 社会変動と家族の変化② 4 社会変動と家族の変化③ 5 配偶者選択 6 晩婚化・未婚化と少子化 7 産む、産まないということ 	<ul style="list-style-type: none"> 8 ドメスティックバイオレンス 9 離婚・再婚と家族 10 母親の子育て 11 父親の子育て 12 貧困と社会 13 エコマップを用いた家族援助 14 高齢社会と家族 15 テスト
<ul style="list-style-type: none"> 1 「家族」とは何か 2 社会変動と家族の変化① 3 社会変動と家族の変化② 4 社会変動と家族の変化③ 5 配偶者選択 6 晩婚化・未婚化と少子化 7 産む、産まないということ 	<ul style="list-style-type: none"> 8 ドメスティックバイオレンス 9 離婚・再婚と家族 10 母親の子育て 11 父親の子育て 12 貧困と社会 13 エコマップを用いた家族援助 14 高齢社会と家族 15 テスト 		
評価法	出席カード、授業への参加度、期末テスト を総合して評価をします。		
受講生への要望	<p>内容は一部変更することもあります。 質問は出席カードに記載するか、授業終了後にお願いします。 グループワークなども行いますので、積極的に授業に参加をして下さい。 予習・復習は教科書の該当するページを指定しますので、それを読んで下さい。</p>		
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 『改訂 新しい家族関係学』／長津 美代子他／建帛社</p>		
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 『問いからはじめる家族社会学』／岩間 暁子他／有斐閣</p>		

必修科目(12)

科目	外国語Ⅱ (英語)	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	河村 道彦
講義の概要および学習目標	<p>医学・医療の国際化とともに医療従事者の英語力の養成が求められている。このコースは看護学生に必要な基本的な英語の知識と医療・看護に関わる語彙、表現を身につけ、簡単な英文の理解、表現ができるようになることを目標とする。</p>								
講義内容	<p>英語の基本的な発音、語彙、文法事項の確認 看護英語の表現・語彙の導入 医療現場におけるモデル会話とその演習 医療・看護に関する英文の講読</p>								
評価法	<p>中間テスト、期末テスト各50%の割合で評価したものを基本とし、平常点にもとづき、これに最大20%の加減を行う。</p>								
受講生への要望	<p>①毎ときちんと予習をして授業に臨むこと。 ②授業には辞書を持参し、意味や発音の分からない語は、その都度調べること。 ③授業や予復習において不明な点があれば質問すること。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 Lifesaver Now Edition / Maki Inoue, Toshiya Sato / ネリーズ</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>								

必修科目(13)

科目	人間関係論	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	百瀬 容美子
講義の概要および学習目標	<p>「講義の目標」 看護場面では、日常場面で起こりうる人間関係を越えた特殊な人間関係が生まれることが予想される。看護場面における特殊な人間関係には、ポジティブな面だけでなくネガティブな面も顕著に表れるかもしれない。人間関係論では、日常場面から看護場面に至る人間関係に纏わる人間の心理を概観し理解を深め、円滑な人間関係を構築できるようなスキルを習得することを目指す。</p> <p>[概要] 授業では、講義中心に対人関係に纏わる人間の心理を理解する上での重要な理論を説明する。適宜、「自己理解」「他者理解」「集団理解」を目的としたグループ討論・事例検討を行う予定である。</p>								
講義内容	<p>第1回～第2回 人間の存在と人間関係 第3回 社会的相互作用と社会的役割 第4回 コミュニケーションについて 第5回～第7回 人間関係に関する理論と実践 第8回～第9回 人間関係の向上へのスキル(1)－傾聴、共感的理解、受容－ 第10回～第11回 看護における人間関係 第12回～第13回 家族関係論と看護ケアの視点(1) 第14回 ソーシャルサポートについて 第15回 ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係 定期試験</p>								
評価法	定期試験60%、レポート20%、授業態度20%								
受講生への要望	積極的な参加を求めます。								
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座 基礎分野「人間関係論」／長谷川 浩／医学書院								
参考文献									

<令和4年度 2・3年次生履修科目>

Ⅱ. 専 門 基 礎 分 野

目錄

第一章 緒論

◆ 病態生理と治療Ⅳ

	担当者	テキスト：書名・著者・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
女性生殖器 疾患 周産期の 異常	水野 薫子 米澤 真澄 脇田由紀子	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「女性生殖器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 9 『婦人科・乳腺外科』第4版 MEDIC MEDIA
		2) 系統看護学講座 専門分野 「母性看護各論」 医学書院	
乳腺疾患	米沢 圭	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「女性生殖器」 医学書院	
小児疾患	五十嵐健康 酒井 秀政 山中 雄城	1) 系統看護学講座 専門分野 「小児臨床看護各論」 医学書院 2) こどもの地図帳 講談社	

◆ 病態生理と治療Ⅴ

科目	担当者	テキスト：書名・著者・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
精神疾患	中村 幸治 小島千加子 臨床心理士 精神保健 福祉士	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「精神看護の基礎」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「精神看護の展開」 医学書院	1)「精神科の治療と看護の エッセンス」 市橋秀夫 星和書店 2)「症状別にみる精神科の看護ケア」 坂田三允 中央法規 3)「精神科ビギナーズテキスト 改訂版 すぐの役立つ基礎知識と実践ガイド」 日本精神科看護技術協会 精神看護出版 4)看護のための精神医学 第2版 中井久夫 医学書院

必修科目(10)

科目	病態生理と治療Ⅳ 周産期の異常 女性生殖器疾患 乳腺疾患・小児疾患	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	医師：水野 薫子・米澤 真澄 米沢 圭・五十嵐健康 助産師：脇田 由紀子
-----------	--	-----------	---	------------	----	------------	----------	------------	--

講義の概要および学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・産婦人科領域における診察、検査法を学び、婦人科疾患を把握する。 ・妊娠・分娩の異常、ハイリスク妊娠を理解する。 ・乳腺疾患のうち、乳がん(乳腺悪性疾患) ・乳腺良性腫瘍、乳腺良性腫瘍性疾患 ・発生、発育の異常、炎症について学習する。 ・小児の看護の実践に必要な基礎知識と技術の習得を目指す。 具体的には知識の羅列ではなく、個々の症例の問題点に対して柔軟に対応できるような基礎的医学知識と思考プロセスの獲得を目標とする。
講義内容	<p>◎<u>女性生殖器疾患 (12時間) 担当:水野 薫子・米澤 真澄・脇田 由紀子</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性生殖器疾患の診察・女性生殖器疾患の症状 ・女性生殖器疾患・周産期の検査・処置 ・疾患の理解：性分化異常(奇形) 臓器別疾患(外陰・陰・子宮・卵管・卵巣腫瘍・絨毛性疾患等) 機能的疾患(月経異常・不妊症・生殖補助技術・不育症) ・妊娠期の感染症 ・妊娠中の異常(流産・早産・異所性妊娠・羊水過少・過多・妊娠高血圧症候群・産科DIC・IUGR・多胎) ・分娩時の異常(前置胎盤・常位胎盤早期剥離・回旋異常・CPD・微弱陣痛・吸引分娩・鉗子分娩・帝王切開・弛緩出血) <p>◎<u>乳腺疾患 (2時間) 担当:米沢 圭</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がんの疫学・乳がんの診断・乳がんの治療 ・線維腺腫・葉状腫瘍・乳管内乳頭腫 <p>◎<u>小児疾患 (16時間) 担当:五十嵐 健康</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 未熟児新生児疾患、先天奇形、遺伝染色体疾患 2. 感染症 3. 免疫アレルギー疾患 4. 神経疾患、心身症 5. 内分泌代謝疾患、腎疾患、血液疾患、循環器疾患、消化器疾患 6. 関連境界領域
評価法	出席状況および筆記試験
受講生への要望	<p>遅刻せず、休まず出席すること。</p> <p>授業中に示す重要なポイント、および基本的な思考方法を中心に習得してください。</p>

必修科目(11)

科目	病態生理と治療V 精神疾患	単位	1	時間数	30	開講期	2年後期	担当者	医師:中村 幸治・小島千加子 臨床心理士 精神保健福祉士
----	------------------	----	---	-----	----	-----	------	-----	------------------------------------

講義の概要および学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害の疫学、症状、診断、治療、経過と予後について学習する。 2. 看護実践のために必要な知識を習得し、医療チームの一員として精神疾患の看護が担える基礎的能力を養う。 3. 精神的問題の重要性を認識する。 4. 「こころの病」への興味・理解を深める。
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の理解(精神科医療の歴史、精神障害者の現状、精神疾患のとらえ方、精神障害の原因・分類) ・精神障害者の抱える症状の理解 ・精神障害の診断と検査 ・精神障害の治療(薬物療法、精神療法、電気けいれん療法、社会復帰療法) ・主な疾患の診療(器質性精神障害、依存症、総合失調症、気分障害、不安障害、適応障害、パーソナリティ障害、解離性・転換性障害、摂食障害、児童・思春期の精神障害) ・コンサルテーション・リエゾン精神医学 ・患者家族の理解とその援助 (担当:中村幸治、小島千加子 26時間) ・心理検査 ・うつ病診断認知療法 (担当:臨床心理士 2時間) ・精神保健福祉センターの業務 ・法・制度について (担当:精神保健福祉士 2時間)
評価法	筆記試験
受講生への要望	<p>遅刻せず、休まず出席すること。</p> <p>授業中に示す重要なポイント、および基本的な思考方法を中心に習得してください。</p>

必修科目(15)

科目	薬理学Ⅱ	単位	1	時間数	15	開講期	2年前期	担当者	薬剤師：藤井 真一 渡邊 悠
講義の概要および学習目標	<p>「薬理学Ⅱ」は臨床薬理学となります。「薬理学Ⅰ」で学んだ薬の知識を実際に臨床現場で適用していく為に必要な事を学ぶ機会となります。</p> <p>同じ薬でもその効果は、厳密には一人一人異なります。時には、Aさんには有効なものがBさんには無効であったり、有害である事もあります。この現象を理解する為には、患者個々の特性を考える必要があります。</p> <p>薬は両刃の剣です。薬の有益な効果を最大限に引き出し、有害な作用を最小限に食い止める為、患者に接する時間が最も長い看護師を目指している皆さんに期待しています。看護師も、適切な薬物療法を遂行するうえでのキーパーソンなのです。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の一般知識 薬はどんな時に使うか、医薬品と法令 等 2. 薬理作用のメカニズム 受容体と情報伝達系 3. 薬物の体内動態 4. 薬理作用に影響する因子 用量、年齢、性別、個体差、連用、薬物・食物相互作用 5. 個々の薬の注意点 6. 輸液・注射剤の注意点 体内の酸・塩基平衡 等 7. 薬の安全な使用 								
評価法	期末試験								
受講生への要望	<p>「薬理学Ⅰ」で学んだ内容を復習しておいていただければ、本講義の理解がスムーズになります。</p> <p>解剖生理学や生化学の知識のついて同様です。</p> <p>疑問が生じたらそのまま放置せず、その日のうちに解決する癖をつける事も必要です。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)「臨床で役立つ薬の知識」改訂版／監修：折井 孝男／学研 2)系統看護学講座 専門基礎分野「薬理学」／吉岡 充弘 他／医学書院 								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)臨床場面でわかる！くすりの知識／監修：五味田 裕／南江堂 2)疾病の回復を促進する薬／福永 浩司 他／NHK出版 								

必修科目(18)

科目	社会福祉論Ⅰ	単位	1	時間数	15	開講期	2年前期	担当者	川島 貴美江
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--------

講義の概要および学習目標	<p>社会福祉・社会保障のしくみ、定義・理念の基礎的な理解を目標とする。社会福祉・社会保障がどのようにつくりあげられたのか、日本と世界の代表国の歴史をとらえる。その上で日本の福祉と社会保障の概要を学ぶ。さらに2年次においては、社会福祉の領域において、さけることのできない課題である貧困問題とその対策としての生活保護制度について学ぶ。</p> <p>3年次の各分野の基礎となる社会保障の概要と我国の貧困対策について学ぶことが目標である。</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と社会福祉 2. 社会福祉・社会保障の意義 3. 社会福祉の機能・ベーシックインカム 4. 社会福祉と社会保障の成り立ち 5. 社会福祉の領域と分野 6. 公的扶助制度 ① 7. " ② 8. 社会福祉と関連領域
評価法	<p>定期試験は国家試験基準となるので社会福祉の基礎分野からの出題スタイルをつかむためにも実施、評価する。しかし、何よりも講義態度、講義への課題意識、出席状況を重視し、評価に含む。</p>
受講生への要望	<p>もはや社会福祉は、ごく身近なことであることを知ってほしい。今日、他人事ではないこととして福祉の問題が存在し、その問題が生起する背景を講義を通して理論的に学ぶ機会として欲しい。その上で、看護職として社会福祉の知識が大切であることを自覚してほしい。日本と世界の福祉制度がつくられてきた歴史を理解し、社会福祉・社会保障の働きや機能を学ぶことが3年次への学習の基礎となる。日常的には新聞を読むなど福祉の話題に関心をもち続けてほしい。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門基礎分野「社会保障・社会福祉」／福田 素生／医学書院 2) 「社会福祉を学ぶ」(第4版)／稲葉 光彦 他編／みらい <p style="text-align: center;">*また講義時適宜資料を配布する。</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>福祉六法</p>

必修科目(19)

科目	社会福祉論Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	3年前期	担当者	川島 貴美江
講義の概要および学習目標	<p>少子高齢社会の進展、経済状況と社会保障予算がきびしさを増す中で、しくみとしての社会保障・社会福祉のあり方が問われつつけている。</p> <p>2年次の学びをふまえて最近の重要な政策動向、国際的動向についても学ぶ。</p> <p>国家試験の基礎事項を復習しつつ、現実の福祉政策の実際と課題を検討する。また、高齢者領域、障害者領域、子どもの福祉の制度改革が進んでおり、この動向をとらえておくことは、日本の社会福祉の方向を考えることにつながるのので、ごく最近の福祉事情を理解することが大切である。</p> <p>高齢者、障害者、子どもの領域で地域で支えるシステムが検討されている。領域によっては医療との連携が不可欠である。3年次は实际的に連携のあり方を学ぶ。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2年次のふりかえり 2. 障害者福祉の動向 3. " 4. 高齢者福祉の動向 5. " 6. 社会福祉の各分野の状況 7. 地域福祉の考え方 8. 多様な福祉領域(NPOなど) 9. 人権とDVなど 10. 社会福祉の資源論 11. 医療職と連携する社会福祉専門職 12. 保健医療福祉の連携、チームアプローチ 13. 日本の福祉の課題と展望 14. 世界の福祉の課題と展望 15. まとめ、試験 								
評価法	<p>講義への取り組み姿勢、出席状況、課題レポート、試験等の成績を合わせて総合評価をする。</p>								
受講生への要望	<p>社会保障・社会福祉は、今や身近な関心事の一つであるはず。人間の健康にかかわる看護職には、社会保障・社会福祉の制度に関する知識・素養が増々求められている。試験のための暗記として制度を覚えるのではなく、社会福祉のニーズをもつ人々(家族)にとって、制度がどのように生かされ、あるいは課題があるのか、当事者の目線でとらえる機会にしてほしい。将来の支援には、福祉職との連携が必要となってくることを実感してほしい。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「社会保障・社会福祉」／福田 素生／医学書院</p> <p>2) 「社会福祉を学ぶ」(第3版)／稲葉 光彦 他編／みらい</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>福祉六法</p>								

必修科目(20)

科目	法と関係法規	単位	1	時間数	30	開講期	3年前期	担当者	国京 則幸																				
講義の概要および学習目標	<p>看護という職業と法との関係を理解するために、責任という観点から法の枠組・体系について学び、法的な考え方の基礎を修得する。さらに、医療提供のための制度と医療を保障するための制度全般について学び、あわせて、それら諸制度の関連性・看護の位置付けについても理解する。</p> <p>《学習目標》 看護という職業に携わる者として理解しなければならない法の基礎を学ぶ。 医療を提供する枠組の全体像およびそれぞれのしくみの関連性について理解する。</p>																												
講義内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 看護と法・法律・概論</td> <td style="width: 50%;">11 関連法規 その1</td> </tr> <tr> <td>2 看護師の法的位置づけ(資格)</td> <td>12 関連法規 その2</td> </tr> <tr> <td>3 看護師の法的位置づけ(業務・総論)</td> <td>13 関連法規 その3</td> </tr> <tr> <td>4 看護師の業務と責任(責任体系)</td> <td>14 関連法規 その4</td> </tr> <tr> <td>5 看護師の業務と責任(民事責任)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 看護師の業務と責任(民事責任)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 看護師の業務と責任(刑事責任)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 看護師の業務と責任(刑事責任)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9 医療の提供と看護(医療制度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 医療の提供と看護(医療保障制度)</td> <td></td> </tr> </table>									1 看護と法・法律・概論	11 関連法規 その1	2 看護師の法的位置づけ(資格)	12 関連法規 その2	3 看護師の法的位置づけ(業務・総論)	13 関連法規 その3	4 看護師の業務と責任(責任体系)	14 関連法規 その4	5 看護師の業務と責任(民事責任)		6 看護師の業務と責任(民事責任)		7 看護師の業務と責任(刑事責任)		8 看護師の業務と責任(刑事責任)		9 医療の提供と看護(医療制度)		10 医療の提供と看護(医療保障制度)	
1 看護と法・法律・概論	11 関連法規 その1																												
2 看護師の法的位置づけ(資格)	12 関連法規 その2																												
3 看護師の法的位置づけ(業務・総論)	13 関連法規 その3																												
4 看護師の業務と責任(責任体系)	14 関連法規 その4																												
5 看護師の業務と責任(民事責任)																													
6 看護師の業務と責任(民事責任)																													
7 看護師の業務と責任(刑事責任)																													
8 看護師の業務と責任(刑事責任)																													
9 医療の提供と看護(医療制度)																													
10 医療の提供と看護(医療保障制度)																													
評価法	試験により評価(講義への出席は試験の前提となる)																												
受講生への要望	<p>一方通行の授業ではつまらないので、できるかぎりやりとりしながら理解を深めたいと考えています。したがって、講義に際しては、テキストの該当箇所はあらかじめ通読しておいてください。 なお、講義自体は配布するレジュメにのっとり進めます。</p>																												
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1) 系統看護学講座 専門基礎分野「社会保障・社会福祉」／福田 素生／医学書院 2) 系統看護学講座 専門基礎分野「看護関係法令」／森山 幹夫／医学書院</p>																												
参考文献																													

必修科目(21)

科目	公衆衛生学	単位	1	時間数	30	開講期	3年前期 後期	担当者	田中一成 小畑充彦 高杉友
講義の概要および学習目標	<p>人々の健康は、個人の体質や生活習慣のみで決まるのではなく、自然環境・社会環境・文化的環境などと深く関係している。公衆衛生の目的は、人々の生活の質(QOL)を向上させるために、社会全体で人々の健康の維持・増進のための仕組みを構築することである。その考え方の基盤となる科学的根拠と、その応用としての様々な対策(政策や計画)を理解する。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生とは 2. 健康の指標 3. 疫学・感染症 4. 成人保健と健康増進 5. 産業保健 6. 環境と健康 7. 障害児・者保健、難病保健 8. 災害保健 9. 10. 歯科保健 11. 食品保健 12. 学校保健 13. 14. 国際保健 15. 筆記試験 								
評価法	<p>出席状況と授業への取り組み、筆記試験による総合評価とする。</p>								
受講生への要望									
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統看護学講座 専門基礎分野「公衆衛生」／神馬 征峰 2) 「国民衛生の動向 2019/2020」／厚生労働統計協会 								
参考文献									

<令和4年度 2・3年次生履修科目>

Ⅲ. 専 門 分 野 I

THE HISTORY OF THE

REPUBLIC OF THE UNITED STATES OF AMERICA

必修科目(2)

科目	看護の変遷	単位	1	時間数	15	開講期	2年後期	担当者	看護師：瀧 泉
講義の概要及び学習目標	<p>看護および看護師は、今日に至るまでにどのような軌跡をたどってきたか。その軌跡をたどり、看護学の発展に影響を与えた歴史上の事実とのつながりをさぐることによって、看護とは何かを再認識するのがこの科目を学ぶ目的である。そして、現在の看護がおかれている状況や問題を理解し、その解決策と将来の展望について考えたい。</p> <p>また、代表的な看護理論を、文献検索、文献研究の方法を体験しながら、その看護理論家が生きた時代や社会背景をふまえ、主要な概念と定義について理解を深める。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護の概念や看護の本質、看護の定義はどのようにしてつくられていったのかを知る 2 看護理論とは何かを知り、主な看護理論家とその理論を理解する 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史を学ぶ意義 2. 近代看護の歴史 — 世界の看護リーダーアメリカの看護・日本の近代看護 3. 看護理論の発展 — 歴史と動向 4. 看護における文献検索・文献講読 5. 看護理論の理解 								
評価法	筆記試験、出席状況、授業態度による総合評価								
受講生への要望	<p>歴史に関心を持ち、看護の変遷を学ぶことを通して看護について考えてほしい。</p> <p>看護理論の理解では、グループを編成し、個人思考・集団思考・プレゼンテーションを行います。理論家と対話するように関心をもって、グループワークに取り組んでください。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学原論／高橋 照子 編集／南江堂 2) 看護理論／筒井 真優美 編集／南江堂 								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>(DVD)看護教育概論 アメリカの看護／ライダー島崎 玲子／医学映像教育センター</p> <p>看護教育概論 日本の看護／ライダー島崎 玲子／医学映像教育センター</p>								

自由履修科目(11)

科目	看護サイエンス	単位	1	時間数	15	開講期	2年前期	担当者	坂上 憲光
講義の概要および学習目標	<p>この科目は単なる物理学ではなく、強いて言えば「看護物理学」である。看護と物理学は数多くの接点を持ち、それを知ることによって、より安定・安楽な看護が可能になったり、ときには医療ミスを防ぐ結果につながることも少なくないのである。体位換をはじめとする看護技術は力学的な原理を知らなければ、単に技術の伝承にすぎず、技術の改善や応用は不可能である。また圧力は血圧・吸引・ポンプ・採血・低圧持続吸引装置の原理など多くの場面で看護と関わりを持ち、これらの知識が不十分であると、事故につながることもある。</p> <p>ここでは看護における「力学」と「圧力のエビデンス」を学ぶ。 又、国試に出題された問題の解説も行う。</p>								
講義内容	<p>1. 力学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力の加減(物を運ぶ、絆創膏をはがす) ・作用・反作用の法則(垂直移動、水平移動) ・摩擦(反対牽引、押す・引くどちらが楽?) ・トルク(鉗子に働く力、体位変換の原理) ・安定・不安定(倒れない条件と倒れにくい条件) ・重心の一致と重心線の一致 ・腰痛の原因と予防の仕方 <p>2. 圧力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血圧測定の原理と血圧値の意味 ・酸素ポンプの流量と時間の関係 ・真空採血の原理 ・低圧持続吸引装置の原理 								
評価法	筆記試験								
受講生への要望	<p>全8回の講義ではあるが、非常に多くのことを学ぶ。 しかしながら、決して難しい内容ではなく、物理学の知識が皆無であっても、中学時代に学んだ理科と数学の知識をベースにして十分理解できる内容である。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 完全版 ベッドサイドを科学する／平田 雅子／学研</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新体系看護学全書 基礎科目「物理学」／平田 雅子／メヂカルフレンド社 2) なぜ?を知ったらこわくないベッドサイドのサイエンス／平田 雅子／日本看護協会 								